

地球温暖化に伴う気候変化を踏まえた今後のダムのあり方について「提言」



地球温暖化問題に対応するため、沖縄本島の今後のダムのあり方にスポットを当て、「沖縄らしい豊かな水環境づくり」を目指し、とりまとめられた提言です。

開発建設部

■はじめに

随分以前から世界的な問題として扱われてきた地球温暖化問題。何かしないといけないことは分かっているけれど、何をやらなければならないのだろう？という疑問が出てきます。ここでは、今後の沖縄の水環境（今後のダムのあり方を中心に）にスポットを当ててつくられた提言の紹介を交えながら、具体的な取り組みをどうやって実現していくのか、北部ダム事務所の考えについて紹介していきます。

■沖縄を知る

沖縄は、日本の南西端に位置する島しょ県で、降雨量の多い地域ですが、昔から水の確保に苦労しており、安定した水供給のため、1972年の本土復帰の頃から、ダムなどの水道に関連

する施設が計画的に整備されてきました。

現在は、水不足に困ることも減ってきましたが、その水源は、沖縄本島北部の「やんばる」のダムや河川の水に頼っています。ちなみに水源として大きな役割を担っているダムは、洪水による被害を減らすとともに、日照りが続いても川の水が涸れることがないよう一定の水を放流することで河川の自然環境を保つ大きな役割も担っています。

■沖縄で予測される気候変化

地球温暖化に伴い、今後予測される気候変化は、いろんな分野の研究機関によりとりまとめられています。沖縄においても、平均気温の上昇（図1-1）、年最大日降水量の増加（図1-2）、大雨（50mm/時間超）の日の増加や雨が降

らない日の増加、海面水位の上昇、台風の大規模化といった気候変化が予測されています。

■気候変化に伴う影響

提言では、ここまで紹介してきた沖縄の現状と気候変化をもとに、治水・利水・環境の各方面からその影響について明確にし、特に、沖縄が潜在的に持っている被害の

受けやすさを「ダメージポテンシャル」として紹介し、気候変化に伴い予測される影響とを合わせ、絵で分かりやすく紹介しています（図1-3）。

■目標と方向性

地球温暖化問題を考えるとき、「気候変化に関する政府間パネル（IPCC）」の第4次評価報告書で指摘されているように、CO₂等温室効果ガスの削減を中心として温暖化の「緩和策」には限界があり、温暖化に伴う様々な影響への「適応策」を講じていくことが重要です。

そこで、提言では、今後の「適応策」の目標と方向性を定め、何をどうやって取り組むのが整理されています（図1-4）。この中には、具体的な取り組み内容と

平均気温変化量(°C)
(2081~2100年平均値)-(1981~2000年平均値)

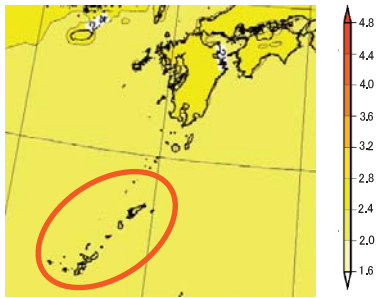
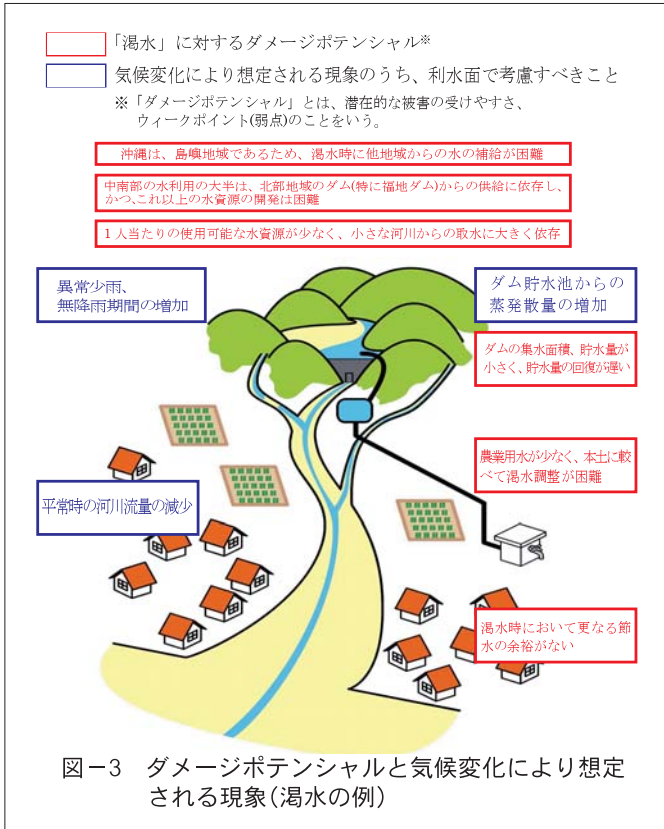


図-1 平均気温

出典:「地球温暖化予測情報第6巻 RCM20を用いた予測結果(A2シナリオ)」



■ **取り組みの実現に向けて**

提言は、地球温暖化問題に対して、今後の沖縄の水環境に関して、具体的な取り組みむべき事について、北部ダム事務所が設置した懇談会によってまとめられました。提言で示された具体的取り組みにより、地球温暖化問題に対応した「沖縄らしい豊かな水環境づくり」を進めるには、関係機関や県民一人一人が関わっていくことが重要です。

そのため、北部ダム事務所では、

この提言を幅広く知っていただくために、2010年6月、報道機関に公開すると同時に事務所のホームページにも掲載してください(図-5のように検索してください)。今後も雑誌など各種媒体への掲載、シンポジウムの開催(とき 10月5日、ところ 那覇市ぶんかテンプス館)、出前講座の活用などを通じPRしていく予定です。

沖縄らしい豊かな水環境づくりのため、この提言をきっかけとし、県民の皆様が重要課題の一つとして認識し、連携し、そして積極的かつ継続的に取り組んでいただければ幸いです。

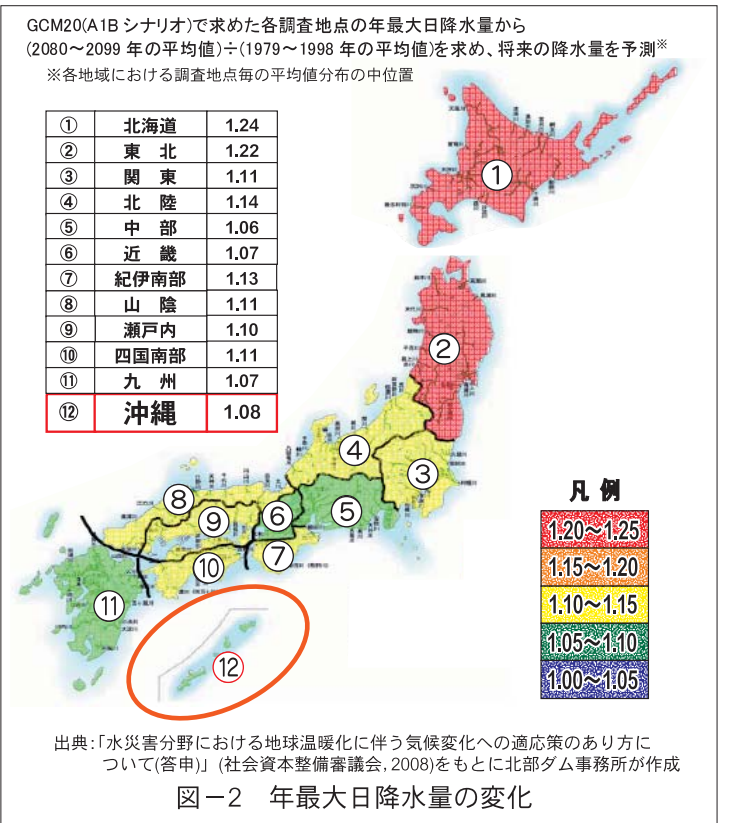


図-5 北部ダム 提言 検索